

Review and Discussion Feature Guide

by Sparx Systems Japan

Enterprise Architect 日本語版

レビューとディスカッション 機能ガイド



内容

1	はじょ	かこ	3
2	モデノ	しのレビューについて	3
3	ディス	、カッション機能	3
4	レビコ	の定義と開催	5
4	.1	レビューの定義	5
4	.2	レビューの実施	6
4	.3	レビューの状態	7
4	.4	レビューの承認者	8
5	Pro	クラウドサーバとの連携	8

1 はじめに

このドキュメントでは、Enterprise Architect のレビューとディスカッションに関する機能について具体的 に説明します。このドキュメントでは、バージョン 17.1 ビルド 1710 を利用しています。

なお、細かい操作方法やメニューに表示される項目のそれぞれの説明はこのドキュメントでは扱いません。 ヘルプをご覧ください。

2 モデルのレビューについて

複数人で設計を行う場合には、それぞれの設計者が作成したモデルについて他の設計者やリーダー(責任者)がその内容をレビューし、設計内容について問題がないかどうか確認します。

こうしたレビューは、関係者が集まり、図の内容を印刷したりプロジェクタでスクリーンに投影したりして内 容をレビューすることが多くあります。この方法は、多人数で議論しながら最適な設計を探ることができるこ とや、設計方針についての意識あわせにもつながることなどのメリットがあります。

一方で、関係者が同じ時間に集まることが難しい場合もあります。このような場合には、モデルのレビュ ーをそれぞれが別々に行い、モデルに対して「コメント」をつけることができます。また、内容によっては単にコ メントとして残せるだけでなく、ある程度の議論を支援する仕組みも必要となります。

Enterprise Architect にはこうした個人ごとのレビューを支援する機能があります。

3 ディスカッション機能

ディスカッション機能は、コーポレート版以上のエディションで利用可能な機能です。個々の要素単位で 利用する掲示板のような機能です。

ディスカッション機能は、「ホーム」リボンにある「チーム設計」パネルにある「ディスカッション」ボタンの上半 分を押すと表示される、レビューとディスカッションサブウィンドウの「ディスカッション」タブを利用します。このウ ィンドウが表示されている状況で、ダイアグラム内あるいはモデルブラウザ内の要素を選択すると、その選択 した要素に関係する内容が利用できます。



要素ごとに情報がまとまりますので、複数人で 1 つのモデルを共有して設計している場合でも、自分が 担当する要素についての情報のみが表示され、効率的に情報を把握できます。また、それぞれの要素に ついて、なぜその設計になったのかという議論の経緯を記録・参照する場合にもこの機能は有用です。

既存の項目をダブルクリックすることで入力欄が表示され、返信を記入できます。また、「新規ディスカッ ションの作成」の文字をクリックすることで、別の項目(スレッド)を作成できます。

なお、ディスカッション機能は、セキュリティ(アクセス権)の機能が有効になっている場合には、ログインしているユーザー名が表示されます。さらに、アバター(アイコン)を設定してある場合には、そのアバターも表示されます。

長所:

- ・ 要素ごとの情報になるので、それぞれの要素ごとの問題や検討項目の把握が容易
- ・ セキュリティ機能と組み合わせると、アバター(画像)で投稿者が判別しやすくなる

短所:

- ・ 複数の要素にまたがるような項目を表現・管理しづらい
- ・ それぞれの要素について、常にすべての投稿内容が表示されるので、複数回のレビューを実施するような状況では過去の情報が残ったままとなり、最新の情報が把握しづらい
- ・ 利用にはコーポレート版以上のエディションが必要

4 レビューの定義と開催

レビュー機能は、第3章で説明したディスカッション機能をさらに拡張した機能です。セキュリティ(アクセス権)機能が有効になっていることが必要です。

ディスカッション機能の問題点として、それぞれの要素について全ての投稿内容が常に表示されるため、 既に解決済みの議論・内容などの過去の情報も表示されてしまいます。一方で、過去の情報を削除して しまうと、なぜそのような設計になったのかを把握できなくなります。

レビュー機能を利用すると、複数の「レビュー」を定義し、それぞれのレビューごとにディスカッションの内容 を切り替えられます。これにより、関係がない内容が表示されたり、誤って過去の情報を削除したりすること を防げます。ディスカッションとして保存された内容のフィルタのような動作です。

4.1 レビューの定義

レビュー機能を利用するには、まずレビューを定義する必要があります。「ホーム」リボン内の「チーム設計」 パネルにある「レビュー」ボタンの下半分を押してメニューを表示し、「レビューの管理」を実行します。「レビュ ー」タブが開きますので、一覧の背景で右クリックして「新規レビュー」を選択します。レビューの設定画面が 表示されますので、レビュー名・初期状態・開始日・終了日を指定してください。

レビューの作成			×
名前:	設計レビュー		
状態:	未実施	•	
開始:	2024/08/21 -		
終了:	2024/08/31 -		
	ОК	\$P>1211 ~11	プ

続いて、親パッケージの指定を行います。親パッケージはレビューを示す要素が格納される位置になりま すので、設計モデルとは別の位置にレビュー専用のパッケージを新規に作成し、そのパッケージを指定する ことをお勧めします。

指定したパッケージ内にレビュー要素が作成されます。作成した人は、自動的にそのレビューに参加して

いる状態になります。

(作成直後に開始日・終了日が正しく表示されない場合があります。ダイアグラムを更新することで、指定した内容が表示されます。)

必要に応じて、ダイアグラム内のレビュー要素の子ダイアグラムを活用すると便利です。その図にレビュー 対象の要素を、モデルブラウザからドラッグ&ドロップして配置します。ドロップする際に「要素の配置」画面 が表示される場合には、「配置形式」を必ず「そのまま配置」にしてください。あるいは、レビュー対象の要 素が他の図に配置されている場合には、その要素をCtrl+Cでコピーし、レビュー図でCtrl+Vで貼り付け ることもできます。

このようにして対象の要素を配置すると、「レビュー」タブの右側に以下のように対象の要素が表示される ようになります。



4.2 レビューの実施

それぞれのレビューを実施する担当者は、先ほどの「レビュー」タブでレビュー対象のレビューを右クリックし、 「レビューに参加」を実行します。参加中は、レビューとディスカッションサブウィンドウの「レビュー」タブには、 参加しているレビューについての情報のみが表示されます。

レビュー対象の要素を選択すると、レビューとディスカッションサブウィンドウ内のレビュータブ内には、すでに 記入済みの内容が表示されます。この領域からコメントを追加できます。



レビューには同時に 1 つのみ参加できます。他のレビューに参加する場合には、このタブ内のメニューボタン(=)を押して「レビューから退出」を選択してレビューから外れた後、別のレビューに参加してください。

そのほか、レビュー機能に関係するさまざまな機能がありますが、このドキュメントでは割愛します。 ヘルプ をご覧ください。

レビュー要素

https://www.sparxsystems.jp/help/17.0/formal_review_elements.htm

4.3 レビューの状態

レビュー要素には、他の Enterprise Architect の要素と同様にプロパティサブウィンドウから「状態」を 設定できます。この状態は、レビューの状況を示すために利用されます。

レビューのロックの設定を行うことで、特定の状態の場合には内容の追加を禁止できます。対象のレビュ ーをレビュータブ内で右クリックし、「レビューのロックの設定」を実行してください。プロジェクトのオプションダイ アログの「レビューのロック」グループが開きますので、編集を不可とする状態にチェックを入れてください。

カシェクトのオブション	עלים− <i>ת</i> ⊡ש י ת			
 □ ペースライン ② クラウド ② 複数言語 ④ MDGテクノロジー ③ コラボレーション 	ロックするレビュー要素を選択してください。			
レビューのロック	状態	<u>רעם</u>		
▽ 🗃 ソースコードの生成と読み込み	保留			
♪ オフジェクトの生成 ▲ ActionScript	実装済			
C C	承認済			
C #	未着手	0		
C++	設計中			
m Delphi Java 률 PHP ♣ Python ♣ Visual Basic ॡ VB.Net	設計済			

この場合には、レビュー対象の要素の状態がチェックを入れた状態になっている場合には、レビューのコメントの追加や返信はできません。なお、レビュー要素の状態ではなく、レビュー対象の個々の要素の状態で編集可能かどうかの判断となります。

4.4 レビューの承認者

セキュリティ(アクセス権)機能が有効になっている場合には、レビューに対して承認者を設定できます。承認者を設定するには、レビューとディスカッションサブウィンドウ内のメニューボタンを押し、「承認者の設定」 を選択してください。登録済みのユーザーを選択して指定できます。

ただし、現状は承認者の指定・承認者による「承認」・「承認」された数の表示以外の機能はありません。 つまり、全ての人が承認したらロックされる、等の機能はありません。

5 Proクラウドサーバとの連携

第5章までに説明したさまざまな機能は、Enterprise Architect内で利用できる機能です。一方で、 レビューで内容を確認する人は実際の設計者とは異なる場合もあり、普段は Enterprise Architectを 利用していない人がレビューを行うことも考えられます。

このような場合には、Pro クラウドサーバの「WebEA」を利用することで、パソコンやタブレット・スマートフ

ォンなどの Web ブラウザからモデルを参照してレビューに参加し、コメントを追加できます。

ただし、Pro クラウドサーバの「WebEA」の機能を利用する場合には有料となります。概要は下記ページをご覧ください。

https://www.sparxsystems.jp/products/other/ProCloudServer.htm

Pro クラウドサーバを利用するためには、Web サーバを構築し、プロジェクトはそのサーバから参照可能 な位置に配置する必要があるなど、いくつかの条件があります。クラウドサーバという名前が付いていますが、 必ずしも外部から参照可能なクラウド環境に配置する必要はなく、社内のネットワーク内にサーバを構築 して利用できます。

Pro クラウドサーバを利用すると、次の画像のように、Web ブラウザからモデルの参照やレビューの参加・コメントの参照や追加が可能です。追加した内容は、即時に Enterprise Architect から確認できます。

